

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 9 月 6 日 (2007.9.6)

【公開番号】特開 2006-36544 (P2006-36544A)

【公開日】平成 18 年 2 月 9 日 (2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報 2006-006

【出願番号】特願 2004-213850 (P2004-213850)

【国際特許分類】

C 0 1 F 5/06 (2006.01)

C 0 8 K 3/10 (2006.01)

【F I】

C 0 1 F 5/06

C 0 8 K 3/10

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 20 日 (2007.7.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表面が平らな立方体状であるマグネシア粉末の製造法であって、純度が 99 重量% 以上のマグネシウム塩を分散した分散液に、塩化物イオンを混合して得られた固形物の粉体を 600 ～ 1200 で焼成することを特徴とする。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のマグネシア粉末の製造法において、前記マグネシウム塩を熱分解温度以上 1100 以下で仮焼して得たマグネシアに、塩化物イオンを混合することを特徴とする。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のマグネシア粉末の製造法において、前記塩化物イオンの混合は、マグネシウムイオン以外の金属イオンを含まない塩基性沈殿剤の溶液を混合することを特徴とする。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載のマグネシア粉末の製造法において、前記塩化物イオンの混合は、塩化物イオンを 0.1 ～ 15 モル% 含有する溶液を用いることを特徴とする。

【請求項 5】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載のマグネシア粉末の製造法において、その焼成は、酸素を含む気流中で行うことを特徴とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

この発明は、表面が平らな立方体状であるマグネシア粉末の製造法に関するものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

発明 1 の 表面が平らな立方体状であるマグネシア粉末の製造法は、純度が 99 重量 % 以上のマグネシウム塩を分散した分散液に、塩化物イオンを混合して得られた固形物の粉体を 600 ～ 1200 で焼成することを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

発明 2 は、発明 1 のマグネシア粉末の製造法において、前記マグネシウム塩を熱分解温度以上 1100 以下で仮焼して得たマグネシアに、塩化物イオンを混合することを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

発明 3 は、発明 1 のマグネシア粉末の製造法において、前記塩化物イオンの混合は、マグネシウムイオン以外の金属イオンを含まない塩基性沈殿剤の溶液を混合することを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

発明 4 は、発明 1 から 3 のいずれかのマグネシア粉末の製造法において、前記塩化物イオンの混合は、塩化物イオンを 0.1 ～ 15 モル % 含有する溶液を用いることを特徴とする。

発明 5 は、発明 1 から 3 のいずれかのマグネシア粉末の製造法において、その焼成は、酸素を含む気流中で行うことを特徴とする。